

環 境 経 営 レ ポ ー ト

2023年度

(2023年11月～2024年10月)



認証番号 0010063



大径木の移植

発行日 令和6年12月25日



目 次

	ごあいさつ	1
Plan	1 組織の概要	2
	2 対象範囲	3
	3 環境経営方針	4
	4 環境経営目標	5
	5 環境経営計画	6
Do	6 環境経営計画に基づき実施した取組内容	7~8
Check	7-1 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価	9~11
	7-2 次年度の環境目標及び環境経営計画	12~14
	8 環境関連法規の遵守状況と違反、訴訟等の有無	15
Act	9 代表者による全体の評価と見直し・指示	16
	10 環境保全活動のご紹介	17~18

ごあいさつ

株式会社フクユー緑地は、公共工事(公園工事、維持管理工事)を中心に緑化工事を行ってきました。人力で行ってきた樹木移植を機械化し、生物多様性の保全に寄与する技術で平成11年11月19日特許第005532号を取得しました。これを境に研究開発型企業を目指し様々な技術開発を行い数々の特許取得を行いました。さらに太陽光発電用杭打ち機の実用新案を取得し大規模発電所での活用が始まりました。再生クラッシャーランを透水性保水型再生クラッシャーランへと機能向上する製造方法で平成30年9月21日特許第6404170号を取得しました。また、多くの企業と技術提携を行い、他社保有技術の活用を通じてさらなる技術革新に努めています。

流域治水・インフラの取り組みとして、熊本県立大学と「緑の流域治水」技術の開発について共同研究を開始し「流出抑制技術開発」、「土壌浸透現象の解明」や「雨庭設置」に取り組んでいます。

河川石積技術研究会と福岡グリーンインフラ研究会の会員としてさらなる技術の研鑽に務めています。

技術提携の1つ目に、地域性在来種は地域に根差し様々な環境変化に対応してきた植物で、それらの生物多様性の保全や創出に欠かせない根底となる植物で貴重な位置づけとなります。それらの植物の種を採取し、発芽・苗化し地域に返す技術によって質の高い緑化を目指します。

2つ目に透水性保水型土舗装は、地域の土を透水性保水型に改良しグラウンドや園路に用いることで雨水の一時貯留や地下浸透を促す技術で『流域治水』に貢献します。

3つ目に遊具やポール、フェンスの基礎として使用されてきたねじ杭基礎を太陽光発電所の基礎として用いる環境負荷の少ない技術提案を行います。

我々は技術革新を進め、「造園」の枠を超えた「環境」に係る一員として社会に貢献します。

当社の特許取得・独自工法のいろいろ



大径木移植工法



植物群移植工法



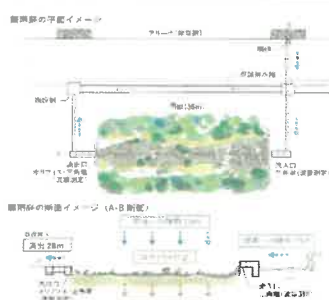
在来種の保全と育成



ネジ杭工法(太陽光発電基礎工事)



透水性保水型舗装(ATTAC工法)



雨庭の計画



1.組織の概要

事業所名 株式会社 フクユー緑地
代表者氏名 代表取締役 栗山 和道

所在地 本 社
〒812-0893 福岡市博多区那珂3丁目18番26号

環境管理責任者 取締役 中西 茂樹
担当者氏名 工事課 立木 駿也
連絡先 TEL 092-432-0825
FAX 092-432-0826
URL <http://e-fukuyu.jp>
E-mail info@e-fukuyu.jp

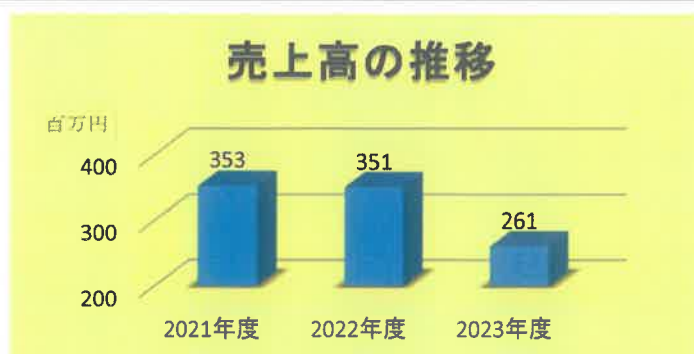
事業活動内容 建設業(造園工事業)
造園工事、造園関連資材の製造及び販売
(造園工事、土木工事、とび・土工工事)

造園	福岡県知事 許可(特1)第 108594 号
土木	福岡県知事 許可(特1)第 108594 号
とび・土工	福岡県知事 許可(特1)第 108594 号

事業年度 11月1日～翌年10月31日

事業の規模

本 社	単位	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	百万円	353	351	261
従業員数	人	7	6	6
床面積	m2	147	147	147



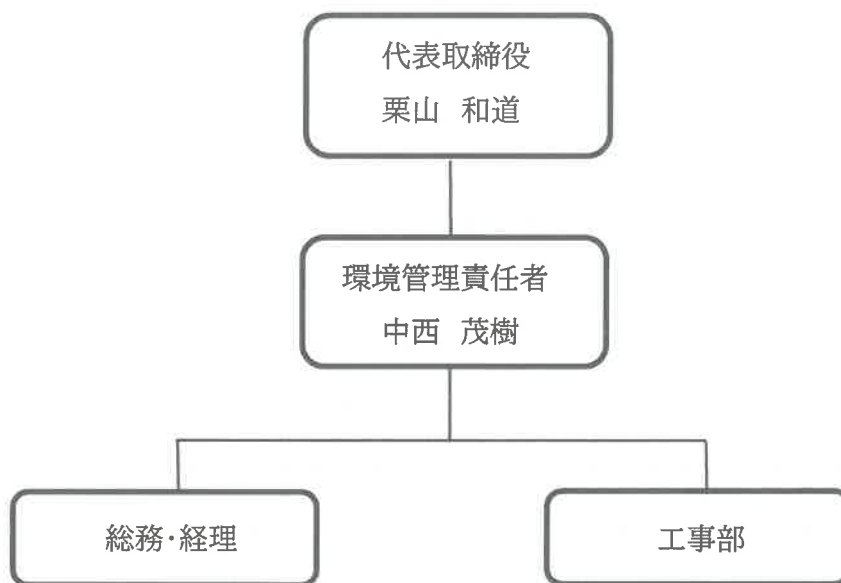
2.対象範囲

当社は全組織・全活動を対象範囲にしています。

2.対象範囲【全社・全事業】

レポート対象期間 2023年11月1日 ~ 2024年10月31日
発行日 2023年12月

認証・登録範囲



【役割分担表】

所 属	担当者	役割・責任・権限
代 表 者	栗山和道	<ul style="list-style-type: none"> EA21全体について責任と権限を持つ 環境方針を作成・見直し、従業員に周知する 環境取組を実施する為の資源(人・物・金)準備 取組状況に関し、評価・見直しをする
環境管理責任者	中西茂樹	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムを構築し、実行・維持する 取組結果を代表者へ報告する
総 務 部 (事務局)	事務	<ul style="list-style-type: none"> EA21文書の作成・維持・管理を行う 環境関連法規を整理し、取りまとめる 電力・節水の管理を行う
工 事 部 (工事課)	立木駿也	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐を行う 廃棄物の削減・分別・リサイクルの管理を行う 車両の燃料抑制の管理を行う
EA21委員会	上記メンバー	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動の状況報告 環境活動計画の見直し・検討を行う
全 従 業 員		<ul style="list-style-type: none"> 環境方針を理解し、環境目標・環境活動計画に基づく自らの業務を通して、取組むべき内容把握と実践

3.環境経営方針

<企業理念>

株式会社フクユー緑地は『**大地、水、緑**』をテーマとした新しい緑の環境づくりを基本理念とし、『**みどり**』という素材を通して、地球環境、都市環境、自然環境のより良い創造をめざして社会に貢献していきます。

<行動指針>

1. 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして継続的に取り組みます。

- a. 事業活動の全てにおいて、省エネルギーの推進を図り、二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
- b. 事業活動の中で発生する廃棄物排出量の抑制・リサイクルを進め、環境負荷の低減に取り組みます。
- c. 事業活動の中で、社員が意識して節水に取り組みます。
- d. 化学物質使用の適正管理に取り組みます。
- e. 循環型社会形成のため、グリーン購入法による商品購入に取り組みます。
- f. 生物多様性保全や自然エネルギー関連の特許技術を活かして、社会の継続的発展を目指して、働き方改革などに取り組みます。
- e. 脱炭素(CN)、自然再興(NP)、循環経済(CE)を意識して取り組みます。

2. 当社の事業活動に関わる環境関連法規制等を遵守します。

3. 環境経営レポートを公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

4. この環境方針を全社員に周知し、環境負荷の低減に対する意識向上に努めます。

制定日:2015年 11月 1日

改定日:2024年 11月 1日

株式会社フクユー緑地
代表取締役 栗山和道

4.環境経営目標

(1) 環境負荷基準年の設定

過去3年の平均値としました。

(2) 単年度及び中長期目標

目標設定項目は、二酸化炭素排出量削減、廃棄物排出量削減、水使用量の削減、化学物質の適正使用を基本とし、その他、営業方針、働き方改革を追加しました。

(3) 中長期目標の削減率

中長期目標の削減率は、経営に無理のない範囲で実行できる数値とし、年率0.1%の削減としました。

環境目標	単位	過去3年間平均 (基準年)	2023年度	2024年度	2025年度	
		2015年～2017年	2023年11月～翌年 10月)	2024年11月～翌年 10月)	2025年11月～翌年 10月)	
事務所 二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	42,417.1	42,162.6以下 (-0.6%)	42,120.2以下 (-0.7%)	42,077.8以下 (-0.8%)	
	電気使用量削減	kWh	9,864.7	9,805.5以下 (-0.6%)	9,795.6以下 (-0.7%)	9,785.8以下 (-0.8%)
	ガソリン使用量削減	L	13,349.1	13,269以下 (-0.6%)	13,255.7以下 (-0.7%)	13,242.3以下 (-0.8%)
	軽油使用量削減	L	2,480.1	2,465.2以下 (-0.6%)	2,462.7以下 (-0.7%)	2,460.3以下 (-0.8%)
現場 二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	14,754.4	14,665.9以下 (-0.6%)	14,651.1以下 (-0.7%)	14,636.4以下 (-0.8%)	
	ガソリン使用量削減	L	274.2	272.6以下 (-0.6%)	272.3以下 (-0.7%)	272.0以下 (-0.8%)
	軽油使用量削減	L	5,271.1	5,239.5以下 (-0.6%)	5,234.2以下 (-0.7%)	5,228.9以下 (-0.8%)
廃棄物						
事務所	一般廃棄物排出量削減	kg	194.2	193.0以下 (-0.6%)	192.8以下 (-0.7%)	192.6以下 (-0.8%)
現場	一般廃棄物排出量削減 (剪定枝等)	t	271.9	270.3以下 (-0.6%)	270.0以下 (-0.7%)	269.7以下 (-0.8%)
	産業廃棄物排出量削減	t	51.7	51.4以下 (-0.6%)	51.3以下 (-0.7%)	51.3以下 (-0.8%)
	建設副産物リサイクル率向上	%	-	95	95	95
事務所	水使用量の削減	m3	47.0	46.7以下 (-0.6%)	46.7以下 (-0.7%)	46.6以下 (-0.8%)
現場	化学物質の適正管理	-	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
事務所	エコラベル商品の購入の 推進	-	配慮する	配慮する	配慮する	配慮する
全社	特許技術を活かして自然 環境等の創造	件	造園業として提案	開発と提案促進	開発と提案促進	開発と提案促進
全社	働き方改革や継続的発展 を目指して経営情報入手	-	-	福祉向上・仕事の効 率化・残業改善	福祉向上・仕事の効 率化・残業改善	福祉向上・仕事の効 率化・残業改善

※購入電力のCO2排出係数は、2023年度の九州電力 調整後数値0.406kg-CO2/kWhを使用

5.環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量削減のために以下の取組目標を設定する

取組目標	活動項目	責任者	実施時期
①電気使用量の削減 (事務所・現場)	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み及び不在時の消灯に努める ・エアコン設定温度、冷房温度:27℃、暖房温度:22℃ ・クールビズ、ウォームビズの実施 ・OA機器、パソコン等は使用しないときは電源OFFもしくは省電力モードにする 	グループ長	通年 ↓
②ガソリン・軽油使用量の削減 (事務所・現場)	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく燃費の良い車に交換、定期的な車両整備の実施 ・エコ運転の実施 (急発進、急加速、急ブレーキの軽減) ・施工計画・運搬計画の際、エネルギー消費の少ない工程や経路を工夫する ・駐車時、積み込み時のアイドリングストップ実施 	グループ長	通年 ↓

2. 廃棄物排出量の削減とリサイクル率の向上のために以下の目標を設定する

①一般廃棄物排出量の把握と削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別回収を徹底しリサイクルに努める ・裏紙の再利用をする 	総務・経理	通年 ↓
②産業廃棄物排出量の把握と削減 (事務所・現場)	<ul style="list-style-type: none"> ・分別回収を徹底し、排出量の削減に努める 	グループ長	
③産業廃棄物のリサイクル率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル率100%の目標厳守 		

3. 水使用量の削減のために以下の目標を設定する

①上水 (事務所・現場)	<ul style="list-style-type: none"> ・水道の蛇口を調整し、出しっぱなしにしない 	総務・経理	通年
-----------------	---	-------	----

4. 化学物質使用量把握と適正管理

①農薬関連	<ul style="list-style-type: none"> ・手順書により管理する 	グループ長	使用時
-------	---	-------	-----

5. エコラベル商品の購入の推進

購入率向上に努力する		グループ長	通年
------------	--	-------	----

6. 特許技術を活かして自然環境等の創造

営業活動における提案と継続的技術開発		グループ長	通年
--------------------	--	-------	----

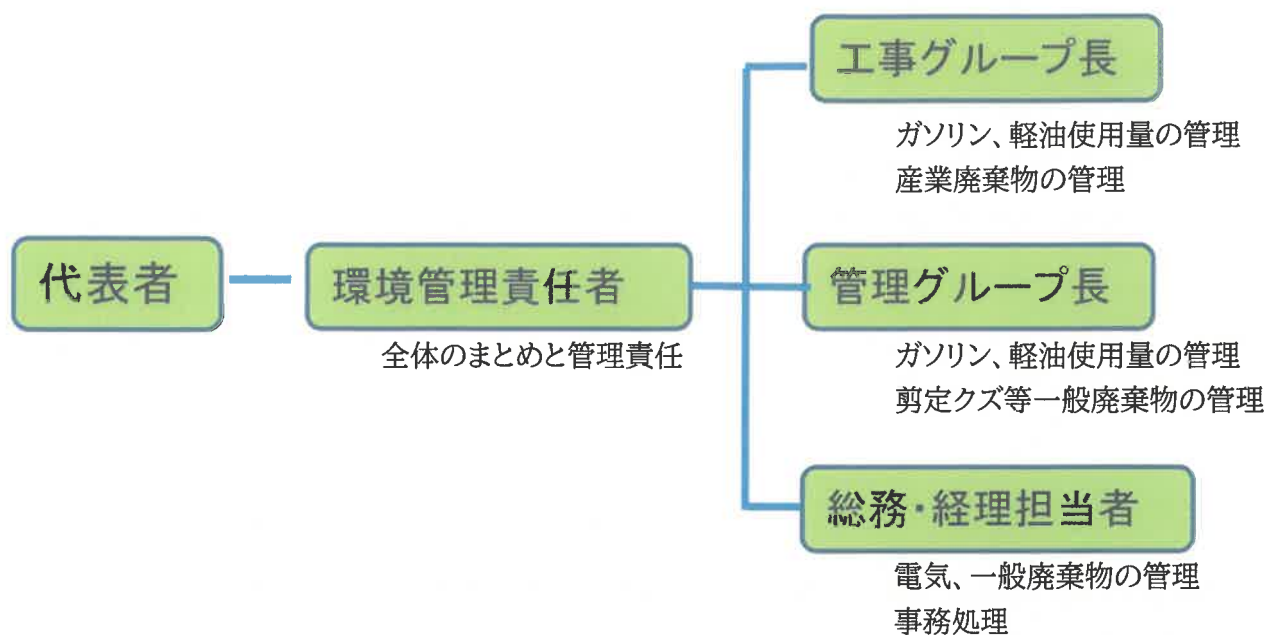
7. 働き方改革や継続的発展

社員の福祉向上や仕事の効率化・残業等改善を進める		グループ長	通年
--------------------------	--	-------	----

6. 環境経営計画に基づき実施した取組み内容

環境経営計画に基づき、以下の様な実施体制と取組みをおこないました。

【実施体制】



【実施した取組内容】

【二酸化炭素排出量の削減】

①電気使用量の削減

- 昼休み及び不在時不在箇所の照明換気扇消灯、パソコン等の未使用時の電源OFF
- LED照明への交換



不在時の消灯



LEDへの交換

- エアコン設定温度、冷房温度:27℃、暖房温度:22℃、クールビズ、ウォームビズの励行



エアコンの設定温度



サーキュレーター

②ガソリン・軽油使用量の削減

燃費の良い車に交換

- エコ運転の実施
- 駐車時、積み込み時のアイドリングストップの実施



社有車



ガソリン、軽油
使用量チェック

【廃棄物排出量の削減】

①一般廃棄物排出量の把握と削減

- 分別回収を徹底しリサイクルに努める
- 剪定クズの削減とリサイクルに努める



剪定枝等のリサイクル



- 裏紙の再利用をする
- 無駄紙をなくす、コピー、プリントアウトでの確認作業



- ボックスは燃えるごみ
- ボックスはリサイクルごみ



コピー時の確認

【水使用量の削減】

①上水 事務所・現場

- 水道の蛇口を調整し、出しっぱなしにしない

【化学物質使用量把握と適正管理】

①事務所・現場

- 手順書により管理する

農薬使用時の手順書



【エコラベル商品の購入の推進】

- 購入文具等に配慮する

【特許技術を生かして自然環境の創造】

- 新規技術の開発・特許の取等
- 営業活動における提案と継続的技術開発



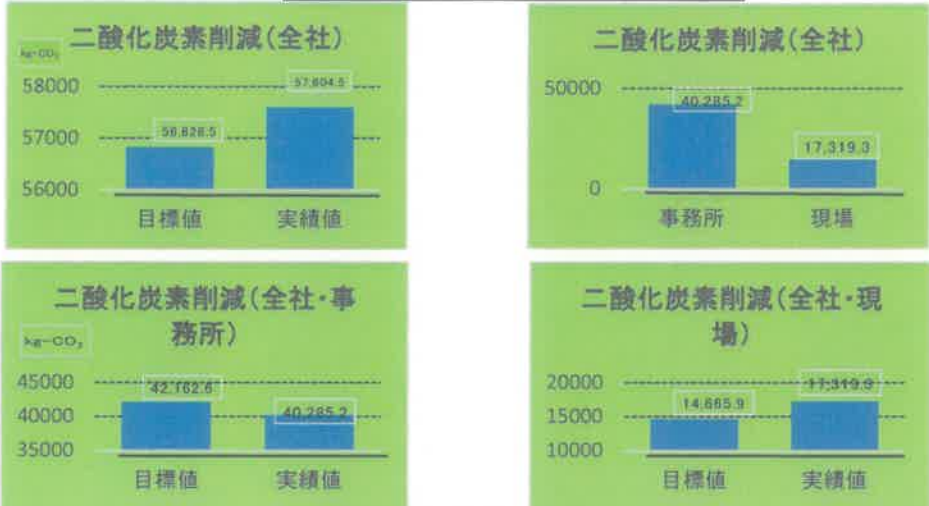
特許証の掲示

【働き方改革や継続的発展】

- 社員の福祉向上や仕事の効率化・残業等改善を進める
- 有給休暇の取得促進



7-1.環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

環境目標	部署	単位	2023年度		達成率 (%)	達成状況
			目標値	実績値		
二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO ₂	56,828.5	57,604.5	101.4	×
	事務所	kg-CO ₂	42,162.6	40,285.2	95.5	○
	現場	kg-CO ₂	14,665.9	17,319.3	118.1	×
計算式: 達成率% = 実績値 ÷ 目標値						
						
2023年度の結果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素の排出量は事務所のみ目標値を達成している。 ・現場重機の使用が多く、比例して二酸化炭素の排出量が増えたと考えられる。 ・今後も重機非使用時のエンジン停止を心がけて二酸化炭素の排出量を抑える。 ・今後も目標設定としては、1年を通して月目安目標値を下回れるよう取り組む。 					
電気使用量の削減	事務所	kWh	9,805.5	6,244.0	63.7	○
	現場	kWh	0.0	0.0	-	○
計算式: 達成率% = 実績値 ÷ 目標値						
						
2023年度の結果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所・現場ともに電気使用量は目標達成 ・現場事務所の設置はなかったために使用量は0であった 					
ガソリン使用量の削減	事務所	L	13,269.0	10,074.7	75.9	○
	現場	L	272.6	0.0	0.0	○
計算式: 達成率% = 実績値 ÷ 目標値						
						
2023年度の結果と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリン使用量は目標達成 ・ガソリン使用は、現場通勤車両であるために、使用量の大きな変化はない ・車両は燃費の良い車に交換している 					

二酸化炭素排出量の削減

軽油使用量の削減	事務所	ℓ	2,465.2	5,572.4	226.0	×
	現場	ℓ	5,239.5	6,712.9	128.1	×
計算式: 達成率% = 実績値 ÷ 目標値						
2023年度の結果と評価		<ul style="list-style-type: none"> ・事務所の軽油は、トラック等車両の燃料、現場の軽油は重機の燃料 ・今年度はトラック及び重機の使用が多く目標値は未達成となった。 ・工事量に比例して使用量が増加するが、削減努力は継続していく。 				
一般廃棄物排出量の削減 (造園業に係る剪定枝等)	事務所	kg	193.0	157.7	81.7	○
	現場	t	270.3	99.0	36.6	○
計算式: 達成率% = 実績値 ÷ 目標値						
2023年度の結果と評価		<ul style="list-style-type: none"> ・事務所、現場共に目標は達成 ・湿潤状態での搬出を控え、排出量削減に努めた。 				
産業廃棄物排出量の削減	事務所	t	0.0	0.0	0.0	○
	現場	t	51.4	7.7	15.0	○
計算式: 達成率% = 実績値 ÷ 目標値						
2023年度の結果と評価		<ul style="list-style-type: none"> ・事務所、現場共に目標は達成 ・事務所での廃棄物は基本的にない 				
上水	事務所	m3	47.0	32.0	68.1	○
	現場	m3	節水	0.0	0.0	○
計算式: 達成率% = 実績値 ÷ 目標値						
2023年度の結果と評価		<ul style="list-style-type: none"> ・事務所、現場共に目標は達成 ・現場事務所での水使用量(水道設置)は基本的にない 				

廃棄物排出量の削減

水使用量の削減

化学物質の適正管理	事務所	-	適正管理	○	-	○
	現場	-	適正管理	○	-	○
2023年度の結果と評価		使用料は少なく、適正に管理されていた				
エコラベル商品の購入の推進	事務所	品目	配慮	○	-	△
	2023年度の結果と評価		・エコラベル商品の購入は状況に応じて推進している			
特許技術を活かして自然環境等の創造	全社	-	提案	○	-	○
	2023年度の結果と評価		・他社との差別化をはかるために、特許他の技術の蓄積と提案を図っている			
働き方改革や継続的発展	全社	-	推進	○	-	△
	2023年度の結果と評価		・残業等の減少は昨年度同様に今後の課題である			

○×の判定基準 数値が少ない○、努力中△、未達成×

7-2.次年度の環境経営目標及び環境経営計画

※次年度の環境経営目標は、項目毎に中期環境目標に記載しています。

二酸化炭素排出量の削減

【二酸化炭素排出量の削減】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
二酸化炭素排出量の削減	全社	kg-CO2	56,771.3以下	(-0.7%)
	事務所	kg-CO2	42,120.2以下	(-0.7%)
	現場	kg-CO2	14,651.1以下	(-0.7%)

【環境経営活動計画】

環境経営計画	
・電気使用量の削減	
・ガソリン使用量の削減	
・軽油使用量の削減	※重点項目

【電気使用量の削減】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
電気使用量の削減	事務所	kWh	9,795.6以下	(-0.7%)
	現場	kWh	0.0	基準年設定

【環境経営活動計画】

環境経営計画	
現場を除き目標は達成されているので、活動は同様に継続	
・冷房温度:27℃、暖房温度:22℃に設定	
・クールビズ・ウォームビズでエアコン節約	
・昼休み及び不在時不在箇所の照明、換気扇、消灯	

【ガソリン使用量の削減】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
ガソリン使用量の削減	事務所	L	13,255.7以下	(-0.7%)
	現場	L	272.3以下	(-0.7%)

【環境経営活動計画】

活動計画	
目標は達成されているが、活動は継続的に	
・燃費の良い車に交換	
・定期的な車両整備の実施	
・エコ運転(急発進、急加速、急ブレーキ)の推進	

【軽油使用量の削減】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
軽油使用量の削減	事務所	L	2,462.7以下	(-0.7%)
	現場	L	5,234.2以下	(-0.7%)

【環境経営活動計画】

環境経営活動計画	
事務所は未達のために、重点的活動を策定	
・効率的な作業工程の検討	
・定期的な車両整備の実施	※重点項目
・排ガス規制、低燃費重機の採用	※重点項目

廃棄物排出量の削減とリサイクル率の向上

【一般廃棄物排出量の把握と削減】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	192.8以下	(-0.7%)
	現場	t	270.0以下	(-0.7%)

【環境経営活動計画】

環境経営活動計画	
目標は達成されているが、活動は継続的に	
・分別回収を徹底しリサイクルに努める	
・裏紙の再利用をする	

【産業廃棄物排出量の把握と削減】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
産業廃棄物排出量の削減	事務所	kg	-	-
	現場	t	51.3以下	(-0.7%)

【環境経営活動計画】

環境経営活動計画	
工事請負の中で発生するものが大半であるが、活動は継続的に	
・分別回収を徹底し排出量の削減に努める	

【建設リサイクルの促進】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
建設リサイクルの促進	現場	-	95%	95%

【環境経営計画】

環境経営計画	
目標は達成されているが、活動は継続的に	
・リサイクル率95%の目標厳守	

水使用量の削減

【水使用量の削減】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
水使用量の削減	現場	m3	46.7以下	(-0.6%)

【環境経営計画】

環境経営計画	
目標は達成されているが、活動は継続的に	

化学物質の適正管理

【化学物質の適正管理】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
化学物質の適正管理	現場	-	適正管理	適正管理

【環境経営活動計画】

環境経営計画
目標は達成されているが、活動は継続的に
手順書により管理する

エコラベル商品の購入

【エコラベル商品の購入】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
環境配慮商品の促進	全社	-	配慮する	-

【環境経営活動計画】

環境経営活動計画
目標は推進しているが、活動は継続的に
・文具や資材の環境配慮商品の購入を推進

特許技術を活かして自然環境等の創造

【特許技術を活かして自然環境等の創造】

【環境経営目標】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
特許技術を活かして自然環境等の創造	全社	件	努力目標	2019年より設置

【環境経営活動計画】

環境経営活動計画
目標は推進しているが、活動は継続的に
・営業活動における提案と継続的技術開発

働き方改革や継続的発展を目指して経営情報入手

【働き方改革】

環境経営目標	部署	単位	目標値	基準年比較
働き方改革	全社	-	福祉向上・仕事の効率化・残業改善	-

【環境経営活動計画】

環境経営活動計画
・社員の福祉向上や仕事の効率化・残業等の改善を進める

8.環境関連法規等の違反等の有無

法令の名称	条項	規則内容等	環境管理責任者評価
廃棄物処理法	法6条 法12条	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物の処理 ・保管基準の遵守 ・産業廃棄物の委託 ・委託基準の遵守 ・管理表(マニフェスト)の交付等 	○ ○ ○ ○ ○
建設リサイクル法	法10条 法16条	対象建設工事の届け出 再資源化の実施 実施の報告	○ ○ ○
オフロード法	法17条	特殊自動車の使用の制限	○
騒音規制法	法14条 法15条	対象建設作業の届け出 騒音の規制基準の遵守	○ ○
振動規制法	法14条 法15条	対象建設作業の届け出 振動規制基準の遵守	○ ○
自動車リサイクル法	法8条	使用済み自動車の引渡義務	○
家電リサイクル法	法6条	家電廃棄の際の適正な引渡、処理料金の支払い	○
フロン排出抑制法	法16条 法41条他	簡易定期点検 引渡義務費用負担	○

違反等の指摘はありませんでした。

2024年12月20日 環境管理責任者 中西茂樹

9.代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

(1)評価と問題点

環境に対する意識は維持できている。

節水意識は安定して維持している。

計画的な有給休暇取得が進んでいる。

新たにグリーンインフラに寄与する特許を取得することができた。

先進的な雨庭を2件、作庭することができ広報することができた。(熊本県立南稜高校、九州産業大学)

(2)次年度の取組

環境意識、節電意識は高くなっているが、一人ひとりの更なる意識の向上を願います。

重機のアイドルストップや80%出力運転など日々の行動に注意する。

働き方改革に伴う就労時間と成果のバランスを図り、環境経営につなげる。

今後も環境に配慮した技術を提案し、業績に結びつけることを強化する。

水をかけるだけで硬化する土固化材の販路拡大を図る。

コンクリート縁石に代わる見切り材の特許出願済み、販路拡大を図る。

グリーンインフラ技術の普及努めます。

雨庭の設置を提案する。

公園、学校のグラウンドの長寿命化を提案する。(現況土を篩い、石や草を取り除き再利用する)

10. 環境保全活動の紹介

1. 生物多様性保全活動・自社の保全技術の紹介



a.地域の小学校で環境学習



b.地域の小学生にホタルビオトープ



c.湿地の希少種保全



d.生物多様性の保全(特許工法)



e.大径木の移植(特許工法)



f.樹木医 大径木等診断

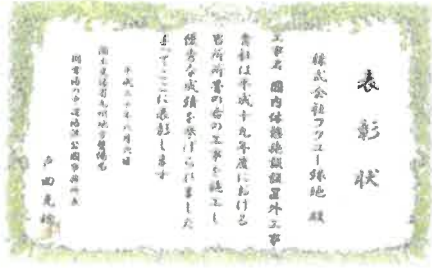


g.太陽光発電・基礎工事(特許工法)



h.透水性舗装工事(占有特許工法)

2. 地域貢献活動等



国土交通省 工事表彰



1~2回/年の清掃活動